



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/1 (月)	+ 600	▲ 23,400	▲ 22,800	短国発行・償還 (3M) 国債発行・償還 (2年)	国債補充供給 + 100 CP等買入 ▲ 100	国債買入 + 8,900	日: 日銀当座預金増減要因と金融調節 (1月実績) 米: アトランタ連銀総裁とボストン連銀総裁講演
2/2 (火)	+ 1,000	▲ 12,000	▲ 11,000				米: クリーブランド連軍総裁講演 欧: ユーロ圏GDP (4Q)
2/3 (水)	+ 1,000	▲ 85,000	▲ 84,000	国債発行 (10年) 法人税・消費税・ 保険揚げ			日: 日銀当座預金増減要因 (2月見込み) 米: シカゴ連銀総裁講演 米: ADP雇用統計 (1月) 米: ISM非製造業総合景況指数 (1月)
2/4 (木)	トン	+ 1,000	+ 1,000				米: 新規失業保険申請件数 (1月30日終了週) 米: 製造業受注 (12月) 欧: ECB経済報告
2/5 (金)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (30年)			米: 雇用統計 (1月) 米: 貿易収支 (12月) 米: 消費者信用残高 (12月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初485兆円から始まった。27日の国庫短期証券買入オペや新型コロナ対応金融支援特別オペにより494兆円台に増加し、週末には495兆9,000億円になった。

無担保コールON物は、先週に引き続き地銀業態を中心としたビッドサイドの調達意欲が強く、堅調な地合いが継続した。なお、同金利は週を通して△0.016%近辺で推移し、週末には都銀業態の調達意欲が強まり△0.012%へ上昇した。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.020%~△0.005%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は海外では2日にユーロ圏第四四半期GDP速報値の発表、5日に米雇用統計 (1月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.030 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.070
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.05 ~ 0.00
TDB 3M	△0.120 ~ △0.070
CP 3M	△0.05 ~ 0.00

<レポ>

足許GC取引は週初△0.085%~△0.075%の出合い。短国買入オペが実施された27日受渡しの取引は△0.09%~△0.08%で推移し、週央にかけては一時△0.10%近辺の出合いも見られた。その後、短国3Mの発行日となる2月1日受渡しの取引は、△0.085%~△0.08%まで上昇し越週した。SC取引では、輪番オペ後に10年カレント近辺の一部銘柄でレートが大幅に低下する場面が見られた他、2年408~420回債、5年136~146回債、10年330~361回債、20年169~175回債、30年59~69回債、40年10~13回債などに引合いが見られた。

<TDB>

29日の3M969回債(5/10償還)の入札は、最高落札利回り△0.0875%(前回債△0.0882%)、平均落札利回り△0.0919%(同△0.0922%)となった。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.092%~△0.087%のレンジ、6M物が△0.104%~△0.102%のレンジ、1Y物が△0.125%近辺で取引された。

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆3,100億円で、週間償還額(約1兆3,300億円)とほぼ同額の発行となった。発行市場は月末日の償還(約1兆600億円)に対し、発行は6,200億円程度にとどまったものの、週を通して陸運・電力・鉄鋼等幅広い銘柄の大型発行が連日実施されたこともあり活況であった。発行残高は先週末の25兆2,504億円から、28日時点で25兆5,672億円に増加した。発行レートは、△0.05%台~0%近辺での出合いであった。26日に、C P等買入れオペが予定通り6,000億円オファー(下限応札レートは△0.08%[前回△0.09%]に変更)され、結果は按分レート△0.034%・平均落札レート△0.028%(前回: 按分レート△0.03%・平均落札レート△0.026%)と低下した。

来週の週間償還額は、約2,000億円程度となっている。発行市場は、3月期末を見据えた期内物中心に相応の発行が見込まれる。発行レートは、横這い圏内での出合いを予想するが、期越え物や希少銘柄に対しては強いマイナスレートでの出合いを予想する。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。